





# ロボットメディアビジネスの展望と戦略

- ネットロボットおよび、ロボットコンテンツのビジネス戦略と需要動向、市場予測に関する調査 -  
【調査報告書】

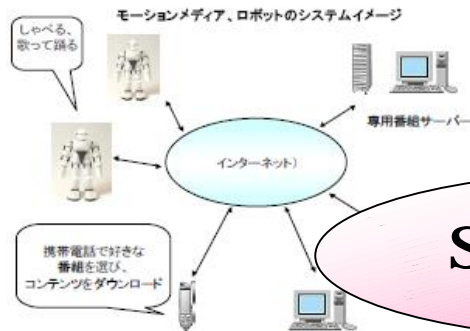
調査報告書のサンプル ⇒ <http://www.aqu.com/robot-media-business/sample.pdf>

第3章. モーションメディアとロボットコンテンツビジネス市場編

第4章. 先進サービスロボット主要企業の戦略分析編

## (2). モーションメディア、ロボットのシステム構成

- ① モーションメディアのロボット端末のシステムは以下のようなイメージになる。
- ② 番組サーバーにパソコンや携帯電話からアクセス、コンテンツをダウンロードでき、ロボットに動作させるなどの指示を出せる。
- ③ スピーシーズでは、インターネットと携帯電話を活用して、専用ブラウザ RTML (Robot Transaction Markup Language) を活用したシステムを構築している。



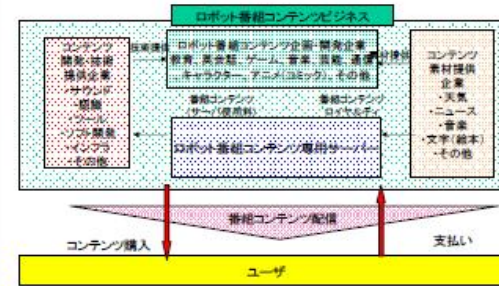
- ④ ロボットのハード仕様は以下のとおりである。

### 【ロボットのハード仕様】

	主な仕様
身長	約 33cm
体重	約 1.5kg
自由度	22 自由度+LED 表示
スピーカー	2 個
LED 表示器	合計約 168 個 (両手部、胸部)
電源	リチウムポリマー電池 7.4V 700mA または AC アダプター (充電機能内蔵)
CPU	RPU-50 (双葉電子工業 (株) 製) SH3 133MHz RAM: 64MB Flash: 64MB, miniSD Slot, RS485, USB, シリアル通信ポート, Audio
サーボ	RS301CR (双葉電子工業 (株) 製)
OS	SpeecysOS Rev.2.0 (NetBSD ベース・ロボット制御機能付き)
無線 LAN	IEEE802.11g 準拠 (USB 接続)
使用条件	*家庭内に無線 LAN アクセスポイントが必要 *初期設定に PC が必要

### ロボット番組コンテンツビジネス概要

## ロボット番組コンテンツビジネス



Sample Image

- ① 人型エンターテインメントロボット「ITR」の市販バージョン「MI・RAI-RT」(ミライ・アールティール)は、10月に販売をスタート。名付け親で「ソニー最高顧問の出井伸之氏で「ロボットの未来を切り開く」と意気込めたものだという。価格として限定 250 台を生産。10月 31 日に出荷を開始。価格は約 4000 円。
- ② 同社のサーバー使用料が付属。専用スタンド、パフパー製製の無線 LAN アダプタなどが標準添付。
- ③ MI・RAI 向けのネットワークサービス「3D メッセージ」は、声のメッセージにロボットの動作(モーション)や BGM を組み合わせている。
- ④ MI・RAI RT のユーザー同士でメッセージを交換できるとともに、自分宛にメッセージを送って自宅のロボットを遠隔操作することもできる。モーションのテンプレートは約 100 種類、BGM は約 50 曲が用意されている。
- ⑤ セリフと動作を組み合わせた「SYGSA テンプレート」は約 240 種類あり、セリフをすべて男女 6 人の声優が吹き込んでいる。
- ⑥ 同社の社長はソニーの AI BO の開発にも関わっていただけに、エンタテインメント事業への取り組み方が斬新で注目される。
- ⑦ 人型エンターテインメントロボット「ITR」の市販バージョンの名称は「MI・RAI-RT」(ミライ・アールティール)というもので、ソニー最高顧問の出井伸之氏が名づけたという。エンタテインメントロボットを厳選したとはいえ、何か、ソニーの力が影で働いているかの様な構図も見られる。
- ⑧ 同社は「MI・RAI-RT」は、誰もが家庭で楽しめるロボットエンタテインメントの創造。家庭内における、ラジオ、テレビ、PC、携帯電話に放ぐ「第 5 のメディア」として一般家庭への普及を目指す」としているが、これは、一般からみれば、常識から逸脱しているかの印象を耳えられた。
- ⑨ ただし、オンラインゲーム市場、ロボット市場の盛り上がりを見事に、マニア、オタクなどの先進ユーザーをまず獲得できれば、意外な展開が広がる可能性がある。
- ⑩ 開発のポイントには単にハード面での差別化だけでなく、ロボットというロボットコミュニティをつくったことである。
- ⑪ 同社の戦略展開の中で、セックをはじめ、提携会社とのパートナーシップが有効に働いていることを伺わせている。